

全国地産地消推進協議会 会長賞

特定非営利活動法人おおつきエコビレッジ（山梨県大月市（おおつきし）） ～農地・山林を再生し、交流を通じた循環型社会を提案～

組織概要

- 代表者 理事長 佐々木 利行
- 所在地 山梨県大月市富浜町
- 構成員 生産者85名
- 活動開始年 平成17年3月



受賞のポイント

- 30年間荒廃状態にあった10haの土地を再生し、その土地で栽培した農産物を地元の直売所等で販売するほか、体験農業の実施や企業の福利厚生活動の場として受け入れを実施するなどの企業と連携した活動、市民農園の貸し出し等の幅広い活動を行うことで、市民だけでなく、都市農村交流が図られ、地域の活性化につながっている。
- 地域の小中学校、短期大学と連携して、栽培から販売体験までの一体的な農業体験学習等を行うことで、地域の農業や農産物に理解が深まっている。

取組内容

■取組みの経緯・成長の契機

- ・大月市は山間地のため、生産性の低い傾斜農地や小規模農地が多く、過疎化の進む状況の中、耕作放棄地が増加している。また、就業環境や意識の変化により、若者の農業離れが進んでいる。そんな状況を打開するため、30年間荒廃状態にあった民間の土地の寄付を受け、環境保全型農業、農地を活用した都市農村交流等の推進を図る目的で、大月市が構造改革特区「大月エコの里特区」の認定を受ける。
- ・趣旨に賛同した市民や都市部の定年退職者など約30名が中心となり、平成17年3月に「特定非営利活動法人おおつきエコビレッジ」を設立し、活動を開始。
- ・約10年にわたり計画的な事業執行を進め、4haが農地として6haが里山として再生された。

■取組みの特徴・活動の強み

- ・再生された農地で栽培されたサツマイモ、白菜、古代米（黒米）や里山再生で発生した間伐材で栽培した椎茸等をエコの里内の無人販売所や地元の農産物直売所、市内イベント・マルシェ等で販売。栽培から収穫、加工などを行う体験農業（240人参加：蕎麦づくり体験教室、小麦栽培教室）、首都圏の企業と連携した大豆の生産から豆腐づくり、企業の福利厚生活動の場としての受け入れや市民農園（30区画）の貸し出し・営農指導の実施、収穫祭の実施などの幅広い活動を通じて、一般市民や首都圏企業の社員・家族などとの年間を通じた交流が行われている。
- ・地域の幼稚園や小中学校と連携した農業体験学習や市内の短期大学と連携した地域再生・地域づくりを実践的に学ぶ古代米の栽培実習や販売体験を通じて、地域農業や農産物への理解を深める取組を実施。
- ・化学合成農薬と化学肥料の使用を極力控えた環境にやさしい農業を実践し、地域における環境保全型農業の取組を推進している。

■地域への貢献・波及効果

- ・市民、都市住民への体験農業の実施、市民農園の貸し出しなど幅広い活動を実施することで、交流人口が増加し、地域の活性化につながっている。
- ・環境にやさしい農業を実践することで、地域農業者の環境保全に対する意識の向上につながっている。